

[このコンテンツは著作権法で保護されています]

【プロが教える株式投資】

中源線建玉法

基本と応用

林 知之

はじめに

相場業界の実践家に中源線の考え方を説明すると、例外なく高い評価で、「これ、おもしろいね」と豊かな表情を浮かべます。

それなのに、古めかしい名称のせいか、いまひとつ投資家が興味を示してくれない気がするのです。もしかしたら、「安っぽい解説をしたくない」という思いが前面に出すぎているのかもしれない。

こんな状況があるため、「中源線って、こういうものですよ」とわかりやすく解説するために作ったのが、この本です。

投資にまつわる情報は、とにかくインチキくさい、いや、ハレンチきわまりないものが目立ちます。「8割当たる」とか、「ゼットイに儲かる」とか……。

でも、ある意味、それらの情報が標準なので、それに慣れている投資家に中源線をアピールしたいと思うのなら、「盛りすぎ？」と感じるくらい強調するのが正解です。それなのに、「インチキ情報と一線を画したい」と力んでしまっていたのかもしれない。

中源線建玉法は、オリジナル4冊組の書籍で、ルールのすべてと注意点、実践上の心得などをしっかりと紹介しています。ただし、それ自体が取っつきにくいようです。

実は、中源線の“入門書”には前作があります。『入門の入門 中源線投資法』です。この本では、中源線の基本ルールを紹介するだけでなく、「ルールを定めて売買（トレード）に臨むと、なにが起こるのか」といった深い部分に切りこみ、いろいろな観点から解説しました。

自信作となりましたが、それだけに思いが重い・・・

そんな経緯があって今回、この本を出版することになったので、「中源線とは、こんな売買法ですよ」「ねっ、おもしろいでしょ」というくらいの語り口で、読みやすく仕上げたつもりです。

中源線の基本的な説明は、前作よりも格段に読みやすく、後半の「応用編」は実際の事例を数多く挙げた“ケーススタディ”で、独自の視点でトレードを追究する内容です。

「これだ！ こういう部分が注目だよ」とガツンと感じた事例だけでなく、私が実際に売買を実践している銘柄も取り上げて解説しています。

これらのことから、この本を読むときの狙いを2つ示します。

ひとつは、「実際に中源線を利用するかどうか」を、本書にある情報から検討することです。

もうひとつは、シンプルなルールで売買する際のさまざまな注意点を拾うことです。

中源線を利用しない場合でも、投資のヒントが満載。すでに中源線を実践している人には、大きな助けとなるでしょう。

2020年11月

林 知之

はじめに

基本編

中源線の基本ロジックをマスターする

Chapter 0

中源線ってナニ？

～うねり取りを実現する機械的売買手法	11
機械的判断でうねり取りを実現する	
0-1 順行と逆行	12
0-2 トレンド転換の基本概念	15
0-3 3分割で建玉をコントロールする	21
0-4 「順行」は放置、「逆行」に注意する	23

Chapter 1

変化点を探せ！

～普通転換	25
逆行で行動すべし！	
1-1 プロは情報をそぎ落とす	26
1-2 逆行を行動につなげる	30
1-3 ドテン	33
1-4 プロの発想「分割売買」	35
1-5 試し玉の本当の効果	37
1-6 3分割をアレンジする	41

Chapter 2

中源線の補助ルール

～ 42 分転換と再転換	45
ルール設定のキモ	
2-1 中源線の補助ルール「42 分転換」	46
2-2 複雑にしない	49
2-3 パラメータ設定	50
2-4 再転換が中源線のミソ	52
2-5 キザミ設定いろいろ	55
2-6 42 分転換の意義とアレンジ	61

Chapter3

中源線を引いてみよう

～陰陽転換のポイントをつかむ	65
道具を使いこなす	
3-1 スムーズな判断のために	66
3-2 納得するために	67
3-3 アレンジのために	68
3-4 やって見ないとわからない	70
3-5 見落とし“あるある”	72
3-6 ダマシについて考える	78

Chapter4

中源線ルールのコア

～中源線の特徴と実践のポイント	83
中源線まとめ	
4-1 トレードで“捨てるはいけない”もの	84
4-2 分割で自由自在	87
4-3 味つけはお好みで	90
4-4 分散について考える	92
4-5 買うときの分散はどれ?	95
4-6 中源線の3分割をアレンジする	96
4-7 中源線利用3つの柱～どの路線を選ぶ?	98

応用編

ケーススタディで実践のコツをつかむ

Chapter 5

損小利大を実現するポジション操作	102
強弱判断と分割のセット 全うするために「ゆるーく」	
8604 野村 HD 2019年1月～2019年9月	104
2531 宝 HD 2018年10月～2019年6月	106
9810 日鉄物産 2019年4月～2019年12月	108
9009 京成電鉄 2019年6月～2020年2月	110
7205 日野自動車 2019年6月～2020年2月	112
6135 牧野フライス 2019年6月～2020年2月	114

Chapter 6

ダマシと値幅取りは表裏一体	116
ダマシはつらいよ 値幅取りこそ中源線の醍醐味 メンタルの準備がカギ	
1722 ミサワホーム 2015年3月～2015年11月	118
1722 ミサワホーム 2018年11月～2019年7月	120
4331 テイクアンドギヴ・ニーズ 2018年11月～2019年6月...	122
1821 三井住友建設 2018年12月～2019年8月	124
8057 内田洋行 2018年8月～2019年4月	126
8057 内田洋行 2019年7月～2020年3月	128

Chapter 7

銘柄を選別して裁量でトレードする	130	
銘柄選定とエントリーのタイミング	休むのも戦略のうち	
6755 富士通ゼネラル	2018年10月～2019年6月	132
4406 新日本理化	2018年12月～2019年8月	134
8114 デサント	2018年11月～2019年7月	136
8114 デサント	2019年7月～2020年3月	138
1722 ミサワホーム	2018年6月～2019年3月	140
1722 ミサワホーム	2018年11月～2019年7月	142
1821 三井住友建設	2018年7月～2019年3月	144
1821 三井住友建設	2018年11月～2019年7月	146
8609 岡三証券グループ	2018年6月～2019年2月	148
8609 岡三証券グループ	2018年12月～2019年8月	150

Chapter 8

バスケット運用と中源線のアレンジ	152	
ストレスフリーのバスケット運用	裁量の発展形がアレンジ	
2531 宝 HD	2019年12月～2020年8月	154
3003 ヒューリック	2019年12月～2020年8月	156
4997 日本農薬	2019年12月～2020年8月	158
5727 東邦チタニウム	2019年12月～2020年8月	160
5911 横河ブリッジ HD	2019年12月～2020年8月	162
6962 大真空	2019年12月～2020年8月	164
7014 名村造船所	2019年12月～2020年8月	166
8604 野村 HD	2019年12月～2020年8月	168

応用編

ケーススタディで実践のコツをつかむ

Chapter

5

損小利大を実現する ポジション操作

強弱判断と分割のセット

絵に描いたように、同じ軌跡をたどることは期待できませんが、ある程度までパターンが再現されると考えるのが、チャート分析の原則です。ただし、ある程度まで……足りない分は、予測とセットのポジション操作によって「どうにかしよう」とするわけです。

こういったデリケートな部分を考えるのも、まずは過去のデータに頼るしかありません。そして、その過去を、いかに丁寧にみるか、再現性をどこまで期待するか、といった加減が重要です。

全うするために「ゆるーく」

さて、応用編の第一章は「損小利大を実現するポジション操作」。中源線の「強弱判断」と「分割売買」が機能する事例を見ながら、あらためて中源線の特性を捉えてみようと思います。

中源線の特徴は、終値だけを結ぶ折れ線チャートのジグザグを、感覚的な捉え方でパターン分析する点です。意外と短期間の動きで判断するので、変化を素早く検知します。

半面、勇み足も起こり得ます。それをカバーしてバランスを整えるのが、3分割の売買です。また、転換の判断で1単位（3分の1）建てたあと、2回目の判断を経て増し玉に移ります。このように、2段階で判断するシステムはほかにはないでしょう。

生身の人間が「こう動きたい」と望む売買がルール化され、生身の人間ゆえに犯すミスを防止する仕組みが用意されているのです。

中源線の通りに売買すると、素早い判断によってトレンドの早期からスタートすることができますが、それによる負けも発生します。負けトレード、損……受け入れにくいことですが、その場のベストを尽くす結果が、必然の負けも生むのです。

勝ったり負けたり——でも、分割で損を抑えたり、迷わずドテンすることで損を抑え、乗れたときにはねばって利を伸ばします。

値動きを機械的に判断することで「損小利大」を実現する、何度乗り損なってもあきらめずに最後に勝ち、小さな損の蓄積を上回る利益を上げる——このように中源線は、「当てようと躍起になるな」「ゆるーくいこうよ」と道を示してくれているのです。

8604 野村 HD

2019年1月～2019年9月

キザミ：研究所シグナル配信キザミ

三度目の正直

応用編の第一章は、読者になじみのある銘柄を挙げます。

私実際に売買している銘柄のひとつである野村 HD について、2019年夏以降の見事な上げ相場を振り返ってみましょう。

今見れば、「はい、陽転して大きく上げました」ということで、「こんな上げを取りたいなあ」なんて感想で終わってしまいそうですが、それでは将来につながるケーススタディになりません。

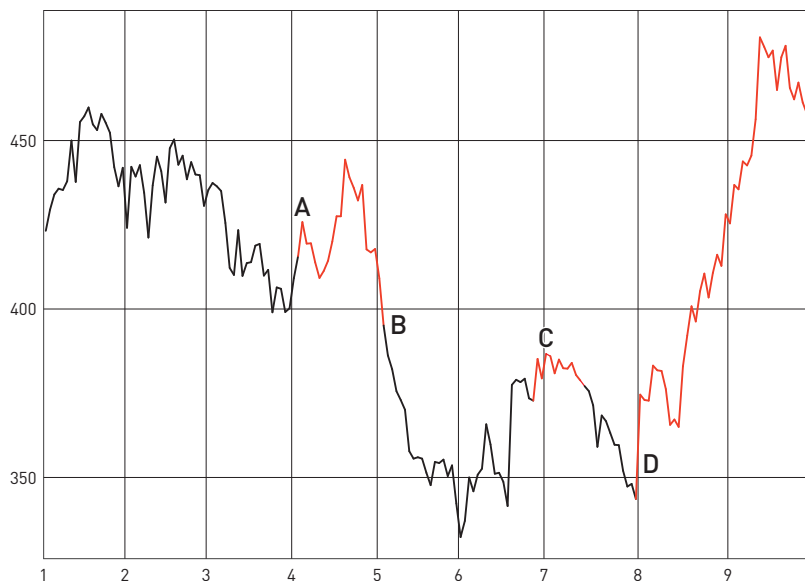
実は最後の見事な陽転の前、4月はじめの陽転（A）、5月の利益にならない陰転（B）、さらに6月下旬の陽転（C、これもダメシ）と、トホホな展開だったのです。

まずはAの陽転。手前の陰線は2018年10月に500円台で転換してからの下げだったので、陽転でキモチよく利食い、という結果でした。また、右のチャートでは範囲外ですが、2018年12月25日に399.5円をつけています。Aの陽転時には、“おいしそう”な要素が並んでいたことがわかります。

- ①天井から約6カ月下げて陽転した
- ②12月下旬に一番底、3カ月後の3月下旬に二番底
- ③“天下の野村”がたったの400円

自然と気合いの入る陽転だったのに、1カ月後には、つい意識してしまった400円のラインを下回って陰転です（B）。

8604 野村 HD 2019年1月～2019年9月



ガクッとさせる展開に対して素早く陰転を示すあたりが、中源線のすばらしい部分ですが、この陰転もダメシ、そして「今度こそ」の陽転（C）もダメシ……こんな流れのあと、2019年8月1日に、前日比31円高で陽転したのです（D）。

前科があるので「またか？」と疑いたくなるのですが、この陽転が、約4カ月におよぶグズグズからの脱出、蓄積された損とフラストレーションを解消する上げの始まりだったわけです。

このチャート以降も陽線のままグイグイ上伸び、高値は1月14日の580.7円（終値）。陰転したのは、2020年2月25日、翌日寄付の売り値は524.8円でした。

チマチマした負けのあと、スカッと値幅が取れた事例です。

2531 宝 HD

2018年10月～2019年6月

キザミ：研究所シグナル配信キザミ

全滅の陽転も無視できない

驚異の勝率80%——こんな宣伝を目にすることがあります。売買システムや、値動きを判断するインジケータのネット広告です。

映画の予告編の「全米が泣いた」なんてセリフのほうがマシだと思いつつも気になってしまいますが、予測的中率は「上か下か」で考えて50%、実際には50%に到達するのも難しいでしょう。

その理由について、「どうしても欲がからむから」という説明もありますが、「上」「下」に「保合」（想定通りに動かなかった）を加えると確率は3分の1、わずか33.3%と計算できます。

だから、「勝率を上げる」のではなく、勝ち方（利を伸ばす）と負け方（損を抑える）を考えるのが正解です。

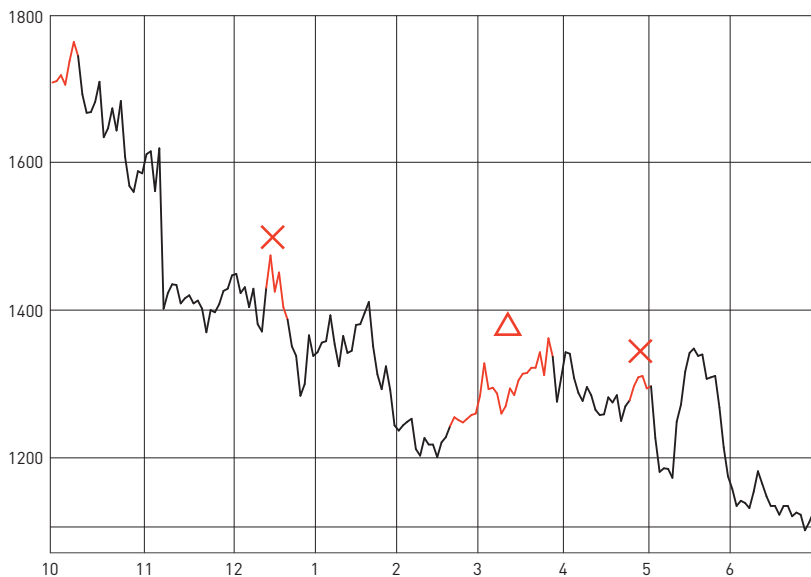
実際、中源線によって過去の値動きを検証すると、平均の勝率は50%を少し下回る程度です。

前項で挙げた野村 HD ほど明暗がくっきりしていませんが、勝ち負けが交互に訪れるモヤモヤとした流れは、よくあることです。

宝 HD は、2018年10月の1,700円台からダラダラ下げを演じました。このあと、2019年8月（チャートの範囲外）には1,000円の大台を割れたのですから、かなり大きな下げです。

ところが、ここに示す期間だけでも下げ途中に3回もの陽転があり、中源線の法示（シグナル）通りに売買した場合、「なんだか

2531 宝 HD 2018年10月～2019年6月



ムダな手を打った」と感じさせます。

では、「今は下げトレンドだから、強張った場面こそ売り乗せのチャンス」と考え、その通りにブレずに行動できるでしょうか？

裁量による売買では、この下げを売りっぱなしというのも可能かもしれませんが、しかし、中源線を利用しながらダマシを回避するのは、かなり難しいことだと考えなければなりません。

陽転を無視して売りポジションを維持した場合、すぐにまた陰転すれば結果的に成功しますが、「下がらないと困る状況」に自分を追い込むのですから、陽転が当たってグイグイ上昇したときには、“次の一手”を失ったまま評価損の拡大を眺めることになります。

小さな損失を容認することの大切さを理解できる事例です。

「標準」や「平均」なんてないが……

オモチャをねだる子どもが「みんな持ってるんだ」なんて言うと、「みんなって誰だ！」と正面から押し返すのがオトナの“あるある”ですよね。でも、そんなオトナが「ほかのみんなはどう読んでいるのだろう？」と考えてしまうのが、相場の“あるある”です。

日経平均という数字を分析しても答えは出ませんし、「こうなるはずだ」なんて標準的な値運びもありません。「ふつう」を定義することは不可能なのです。

しかし、そのなかで、なにか基準を定めないと前に進みません。中源線も、結果として当たり外れは生じるものの、再現性を求めて最大公約数的な値動きを定義しています。

そこそこ大きなブレを容認する前提での「基準」です。

日鉄物産の動きは、そんな位置づけというか、勝ちと負けが混在するパターン、損小利大の“標準形”といえる気がします。

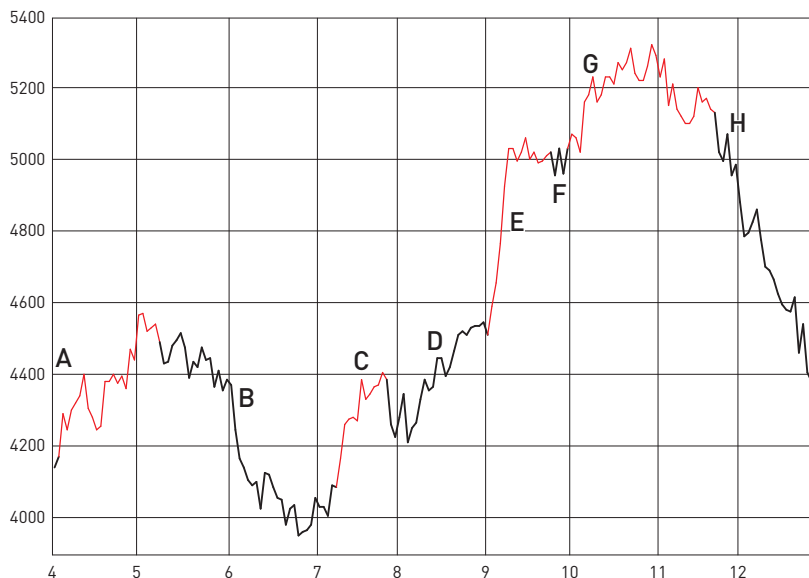
よいダマシ、わるいダマシ

この期間、8回の転換があります。順に追ってみましょう。

AとBは勝ちですが、CとDが負けです。

次のEは勝ちですが、ここで「Dの陰転はホントにいらぬ！」と強く感じてしまいます。

9810 日鉄物産 2019年4月～2019年12月



Fの陰転は「仕方がない」と片づけます。Gの陽転後に上伸して新高値を取ると、Fの陰転を容認する気持ちがさらに強まります。でも、上げ損なってHの陰転を迎えると、あらためてFの陰転とGの陽転について「気に入らない」なんて気持ちが出てきます。

最後にくるHの陰転は結果が確定していませんが、「おそらく勝つ」という印象通り、しっかり値幅を取りました。

したがって、高値圏のダマシを再び許す気持ちになるかもしれませんが、こうして振り返ると、仕方がないと思えるダマシと、そうでないダマシがあるという、おかしなアイデアが頭に浮かびます。

「よいダマシ」と「わるいダマシ」がある……この言葉でラクになれば儲けものですけどね。

9009 京成電鉄

2019年6月～2020年2月

キザミ：研究所シグナル配信キザミ

こんなに転換しなくても……

チャートを一見しただけでわかるのは、転換の頻度がとても高いことです。表示されている9カ月間で、合計12回も転換しているのです（最後の陰転Dを含む）。

利益が出ているのは、上げトレンドではAの陽転とBの陽転、下げに入ってからのCの陰転です。まだ決着がついていない最後の陰転Dを除けば、勝ったのは11分の3、率にして約27%です。

こうして数字にしてしまうと、とてもザンネンな気がします。

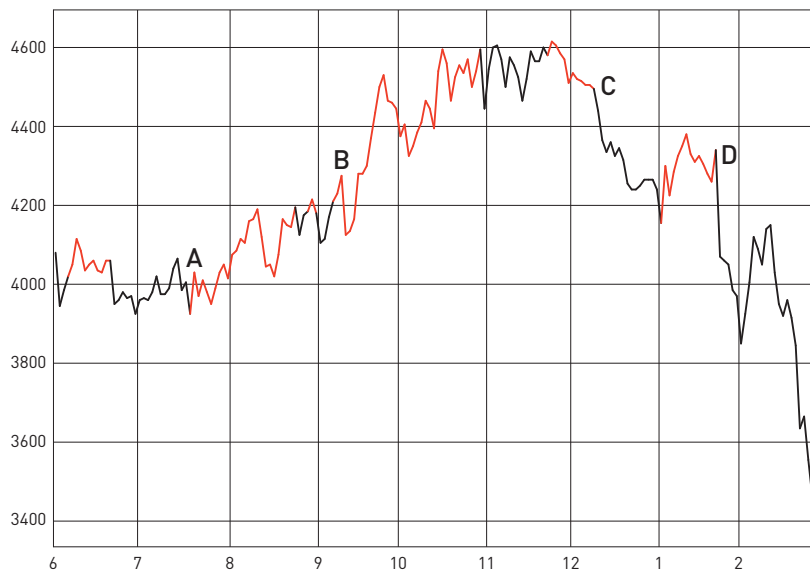
もちろん、これはキザミ設定が細かいからです。ただ、この期間を見ただけで、「キザミが適正値よりも細かい」と断言できるものでもありません。

中源線シグナル配信をスタートする段階では、最長31年間の過去データを検証し、“間違いなさそう”なキザミ値を導き出すようにしたからです。

もっと利益率の高いキザミ設定があるかもしれませんが、少なくともこの期間では、キザミ値を大きめにして転換を鈍くしたほうが利益は多かったと言えます。

ただ、それは“カーブフィッティング”と呼ばれるキケンな発想です。直近の過去データだけに“フィット”させる「過剰最適化」なのです。

9009 京成電鉄 2019年6月～2020年2月



ユルク、長く効く

シグナル配信で気をつけたのは、このカーブフィッティングです。売買ツールのインチキ宣伝に使われる裏技なのですが、自分で使うルールを決める際にも、ついやってしまう落とし穴だからです。

長期間の過去データを検証した結果、シグナル配信の設定よりも利益率が高いキザミ値が存在するケースは多々あります。

ただし、ある年はウハウハで、ある年はボロボロ……そんな売買結果になる場合は潔く捨てました。実用的かつ現実的なものに仕上げるため、無難に、ユルク、長く効くキザミを採用したのです。

静かな動きは小さなキザミ、荒い動きは大きなキザミと、状況に応じて使い分ける——そんなことが可能なら、誰も苦勞しません。

7205 日野自動車

2019年6月～2020年2月

キザミ：研究所シグナル配信キザミ

時間軸を考える

日野自動車は、2019年9月の陽転が当たり、きれいに値幅取りが実現しました。まさに「利大」です。

でも、その手前の期間、下げの末期では、ちょい勝ちのあと負けとトントンが2回ずつという、つまらない展開でした。

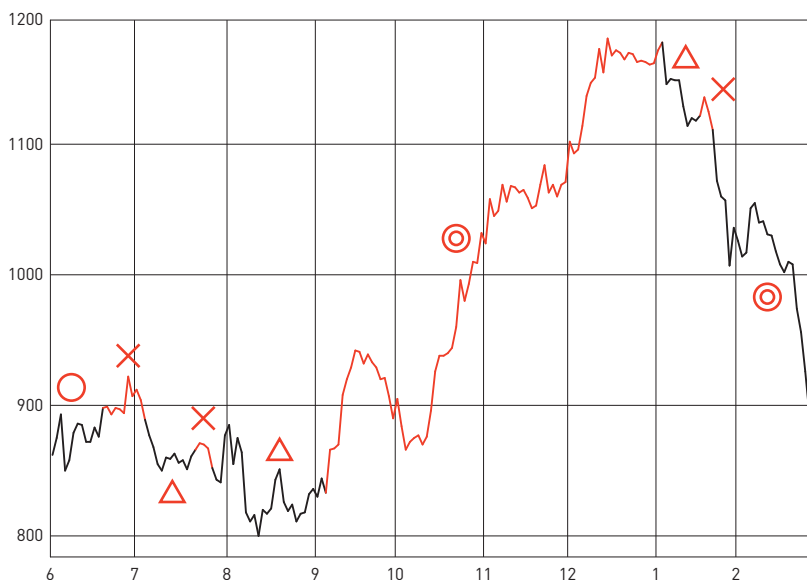
全体を見て、「大きな上げを取ったのだから、手前のグズグズはガマンしろよ」と言う人でも、実際にグズグズの約3カ月間に身を置いていたらイラつくはずです。

9月の陽転だって、「出損なった？」と感じさせるほど深く押し、「よし乗れた」と強く感じたのは10月の中旬過ぎでしょう。こんなモヤモヤ状態で3カ月、4カ月が経過したのです。

朝のニュースでNY市場の動向を見て「今日はどうだろう……」、大引を見て「明日はどうだろう……」と真剣になるのに、数十倍を超える期間について「ガマンしろよ」と切り捨てることができるのは、私たち人間の能力、器用さによるものです。

落ち着いて過去を検証するには、この器用さを抑えなければなりません。パッと見て、いい感じのトレンドは「ここでポジションを取っていたら快感」と実際の時間の流れを想像し、心地よい日々を送る感覚が脳内に浮かびます。一方で、「グズグズが3カ月続く？ あっという間だよ」と言いきってしまいます。

7205 日野自動車 2019年6月～2020年2月



1年でも10年でも、過去の値動きをチャートで見た場合、一瞬でなぞることができます。でも、それでは雑だと考えるべきです。

チャートを眺めて考える時間は、大切な準備段階です。実際にポジションを取るのが「練習」なら、チャートを眺めるのは「予行演習」です。現実の売買との間には時間の流れ方にギャップがあるのですが、それを放置しないように気をつけたいわけです。

日野自動車は、インターネット放送「マーケット・スクランブル」で毎月、定点観測を行っている銘柄です。放送を見ている読者は記憶しているかもしれませんが、この大当たりの陽転に至るまで、実に長い期間、おそろしいほどのダラダラ下げでした。時間軸、時の流れを意識しながら、放送をチェックしてみてください。

6135 牧野フライス

2019年6月～2020年2月

キザミ：研究所シグナル配信キザミ

「小勝ち + 小負け = 大損」の法則

損小利大を考える章の最後は、私たちプレーヤーのメンタル面と心構えを考えてみたいと思います。

売買は、利益を上げるために行います。だから、「勝ち」という結果が、ある意味、当たり前のイメージなのです。

でも、「いける！」と思って仕掛けても空振りして損切りになる、いわゆる必然の負けも想定しなければなりません。本項は、まさにそれがテーマです。

そんな厳しい現実を考えて“計画”するのですが、頭の中にあるのは勝ちパターンです。勝てるポイントを見つけて仕掛けるのが、メンタル的に自然だからです。だから、理屈で理解しているはずの現実よりも、期待値のほうが高くなります。

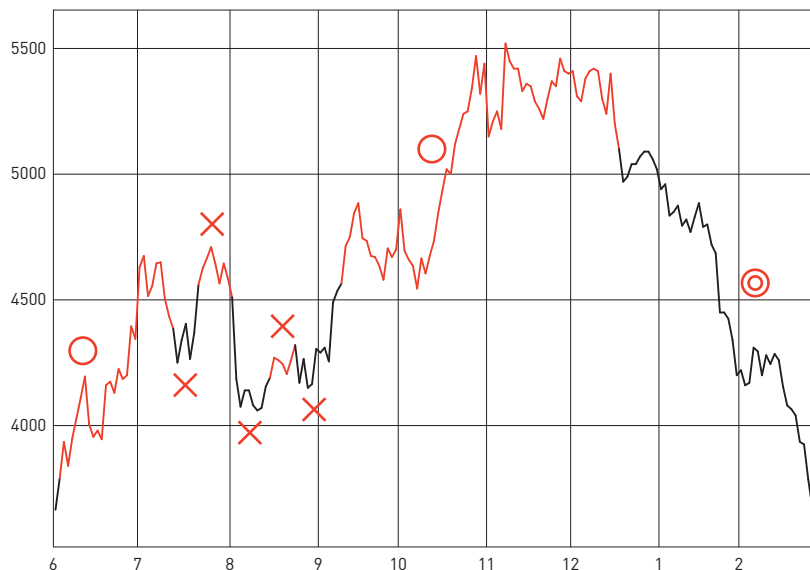
本項の牧野フライスのように、その期待値を少しだけ下回る勝ちと、残念な負けが混在すると、トータルでは問題ない結果とはいえ、すごく損をした気分になるのです。「相場は損小利大なんだよな」と唱えながらも、受け入れにくい心理があるわけです。

負けなければ勝ち組

勝つために売買に臨み、できれば“大勝ち”したい——。

でも、大負けさえしなければ、大勝ちの可能性は残ります。

6135 牧野フライス 2019年6月～2020年2月



市場は、多くの参加者が一獲千金を狙って玉砕していく場です。相場は、生き残りのゲームなのです。

ワクワク感がないどころか、メンタルが沈んでしまいそうですが、負けなideいればいいんだという考え方も捨ててはいけないのです。

私たち人間は不合理な部分をたっぷりと抱えています、それも含めた“自分”を否定する必要はありません。

中源線を利用しながら裁量を加える道は、しっかりと肯定されるものです。中源線の書籍にもガッツリと述べられていることです。

ただ、中源線に預けた強弱判断（陰陽転換）について、「当たるかどうかを当てよう」とする姿勢には矛盾があります。裁量を加える前に、損小利大の現実を受け入れるのが第一歩でしょう。

『中源線建玉法 基本と応用』の中身チラ読みはこのページで終了です。お申込をお待ちしています。